

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200354		
法人名	株式会社 はなみずき		
事業所名	グループホーム船穂はなみずき		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂3194-1		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200354-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成28年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム船穂はなみずきは、倉敷市船穂町と真備町の境の山の上にある小さなホームです。リビングからは眼下に高梁川が見えます。倉敷市内から9人の認知症の高齢者が入居され生活しています。入居者が安心して暮らせることを願い14人の職員と話し合い工夫しながら支援しています。何かの御縁で地球の中のこの場所に集まった入居者の方と職員共に、ここでの生活を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長の息子さんがこの度、介護支援専門員の資格を取得し、この春からは母と二人で計画作成担当者としてプラン作成に携わることになった。開設当初からの職員も多く、職員の高齢化も気になるホームとしては立派な後継者が出来て安心している。夜勤専門の職員が4名、看護師資格のある職員3名と人材にも恵まれ、14名のうち近くの団地から通ってくる人が半数以上いる。市の職員から「職員の入れ替わりが少ない。何か理由でも？」と言われたくらい定着率が良い。利用者は家族の縁が薄い人が多く、前の住まいを引き払いこのホームを定住の地と決めて、自分で納得して来ている人ばかりと聞いている。男性利用者は自分の自由な時間と空間を愛し自室で過ごす事が多く、女性利用者はリビングで職員や他の利用者や他と談笑している人が多い。職員は出来る限りその人の生活スタイルや自主性を大切にしている。ホーム長が“めだかの学校”と表現するように、一つの大家族のように寄り添いながらゆったりとした平和な生活が続くことを願っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの生活が続けられその人らしく穏やかに地域で暮らせるように支援しています	家族に縁の薄い人も多く、ここを定住の地として家族の様に暮らしてもらおうと職員は日々支援しており、その人がどう思っているか、その思いを大切に理解しようと、職員は利用者によく会話をしてコミュニケーションを大事にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時焚火に手を温めながら、焼き芋を頂いたり畑で収穫した野菜を届けてくれたり、こちらの行事に声掛けしたり交流しています。	開設して13年、ホームの存在も地域の中に浸透し、近所の人からの野菜の差し入れや、町内会の回覧板、散歩の途中で地域のひととの交流も日常的になっている。恒例になっているイベント時の踊りのボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	船穂町のふれあいサロンに出席し認知症への理解をテーマにお話しさせていただくなど地域の高齢者と交流している。		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢者支援センター職員、民生委員、後見人さん、ご家族の参加で2ヶ月に1度開催しています。ホームの報告等をして意見交換をしています。	運営推進会議ではホームの活動報告をし、現状を知ってもらい今後の課題等を参加者で話し合っている。行政、地域の人、家族等と情報交換をしたり、時には参加者とざっくばらんな話で盛り上がることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が1ヶ月に1日訪問があります。福祉事務所のケースワーカーさんとは連絡を密にとっています。	生保の人や在宅困難な人の受け皿的な役割もしているので、居宅介護支援事業所や地域包括とは日頃から密接に連絡を取り合っている。今年度はホームの居住費の件で市の指導監査課とも連携を取り合った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内研修等を行い職員とともに取り組んでいる。ただ9人の認知症入居者の安全、事故等を考え外の施錠はしています。	安全確保の為、道路に面した門扉を閉めている。ここへの入所を納得して来ている人ばかりなので、帰宅願望の人はいない。職員間で身体拘束に関する研修を行い、言葉による抑止にも心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止をテーマに所内研修を行いません。虐待も身体拘束、薬、言葉、経済的、等あることを学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護をテーマに所内研修を行ないます。また入居者が成年後見制度を利用しており、後見人さんのお話を聞く機会が多いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定時はホームの内容やケアについて、重要事項の説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族等の意見を伺っている。日常生活の中で本人の発言にも傾聴している。介護相談員のお話を聞いています。	家族には毎月ホーム長手書きの手紙や「はなみずき通信」を送付し、必要に応じて電話、ライン、メール等でやりとりしている。面会に来る家族とはその都度よく話し合うようにして、意向や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを始め、気のついたことはその都度話し合って提案や意見は聞くようにしている。	毎月のミーティングや業務日誌で情報の共有をし、業務改善や利用者の状況・変化等を話し合っている。職員は近くの団地から来ている人が多く、年1回は職員同士で飲食を共にし、親睦会を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準も明確にしており、職員のやりがい等の気持ちを大切に、長く働けるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を持ち、資質の向上ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船穂町内の介護保険事業所交流会に参加し質の向上の取り組みをしている。また地域の施設の運営推進会議に参加し、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当の職員を決め、不安なく過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望等を伺い、関係づくりしている。家族と入居者の不安を少なくするように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。個別の支援や必要な他のサービスの対応も考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い一緒に生活する者として助け合うこともある。高齢者の知識に職員が教えられる事もある。入居者と職員の年齢差が縮まっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力がある時はそうしている。当ホームは家族と縁の薄い人もいるが寂しさを感じずに生活してもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や馴染みの店へ買物に行く等の支援をしている。週2回面会に来てくれる友人がいる入居者もいる。	馴染みの美容院、思い出の海、よく行っていたうどん屋等、それぞれに馴染みの場所や懐かしい場所に出かけている。職員は家族にも協力をお願いしながら出来る限り面会や外出の支援をしようとして努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間づくりや気の合う人と話ができるようにしている。ただ24時間ではなくホールに來たり自室に入ったりしている。男性入居者は利用者同士の関係の支援が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族の訪問やボランティアの申し出があり、亡くなった入居者のめい御さんの訪問もありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその人の人生歴も考慮し、希望、意向を把握できるように対応している。	日頃から利用者とはよく会話をし、ホーム長考案の独自の様式を使って、その人の思いや希望を把握している。職員が見ても分かりやすい内容であり共有しやすい。一人ひとりの思いをプランにも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が歩んできた人生や得意な事を日常の会話の中から把握に努めている。カラオケ、読書、飲酒、ドライブ等支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から利用者の一日の過ごし方、心身の状態できる事等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の話を聞きその人らしい暮らし、必要な介護等の計画をスタッフで検討し作成している。	プランは本人・家族の意向をよく聞き、具体的な目標設定にしてあり、日々の支援に活かしやすい。モニタリングを6か月毎に行い、職員間で話し合いながらプランの作成をしている。ケアプラン立ち上げシートを有効に活用している。	利用者の個性や症状をよく理解し、プランや日々の介護に活かしているが、介護記録をモニタリングやプランに役立てられるようにもう少し記入の工夫も考えてみて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や介護記録等職員間で共有し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の人達との交流は大切にしている。地域の中でその人らしい暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的な受診し適切な医療や助言を受けている。発熱時は医師から様子を尋ねられる	従来のかかりつけ医を受診する人もいるが、原則家族に付き添いをお願いしている。他科受診はほぼ職員が受診同行している。月1回の訪問歯科もある。職員に看護師が3名配置されているので、軽微な症状は電話で医師に相談対応してもらえ薬の処方もしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な介護の中での気づきを看護師に伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。入居者も看護師を信頼し相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密にしたり関係づくりを行っている。高齢者が多く病院との関係は必要です		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去にも経験したが家族・職員とも相談しながら出来る限りの支援をしていきたいと取り組んでいる。家族の協力が大切です	過去には看取り経験もあるが、最近では医療面で重度化すると入院になり、病院で亡くなるケースが多い。ホームでの看取りは家族の協力がないと難しいが、かかりつけ医と相談しながら、ターミナル支援をしていく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者が多いので、いつでも対応できるように日常から知識や定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、年2回昼と夜を想定した避難訓練を実施している。	2階に居室がある6名と一緒に実際に建物外の非常階段を使って避難する訓練をし、夜間想定の際は通報・避難訓練を実施した。災害時にはホームの立地場所が境界近くにあるので、船穂町ではなく、近くの真備町の指定避難場所に行くようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強をしたり利用者を傷つけない言葉かけをするようにしている。	2階には3か所のトイレがあり、女性利用者が使用中に男性利用者が間違っただアを開けないように、女性用と男性用に分け、利用者に分かりやすいように矢印や文字を大きく表示してドアに貼っている。プライバシーと羞恥心への工夫と配慮がしてある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、どうしたいのか尋ね安全面を考え自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを安心して過ごせるよう見守り声掛けもしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やパーマ、ヘアカラーなど本人の希望されるように支援している。ただ入居者の希望とスタッフの思いと異なることがある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせ食べやすくしたり介助の必要な人にはさり気なく側についたり出来る人には後片付けをしてもらったりしている。	利用者の「焼肉が食べたい」という希望があればイベント時の食事になり、月1回のおやつバイキングは全員が楽しみにしている恒例行事になっている。誕生日にはビールで乾杯という楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し支援している。食事量と水分量の記録を残す時もある。体重の増減のチェックも行う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや、義歯の手入れなど利用者の力に応じ保清に気をつけ声掛け見守りを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立していない人には排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけ誘導している。	トイレは自立という人も多く、布パンツの人が6人いる。自立の人は男性用トイレと女性用トイレに分かれて使用している。毎日トイレ誘導する係が決まっているので、排泄チェック表を見ながら適宜、声かけ・誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ食事量運動等予防に取り組んでいる。医師に相談し下剤の服用をやめたこともある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調に問題がなければ、午後のゆっくりした時間を入浴タイムとし楽しんでもらっている。ただ拒否の人もおられ年齢を考慮し対応している	以前は毎日入浴という時期もあったが、今は2日に1回を基本としている。その日の気分や体調不良で入浴できない時は、無理強いせず清拭・更衣のみにすることもある。コミュニケーションを取りながら楽しく入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じて日中は自由に過ごしている。夜は眠れない日もあり話し相手やお茶を飲んだり室温調整等眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できない利用者もいるがお薬はケースに入れ管理している。症状の変化等については医師看護師に相談、確認に勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の個性趣味等に合わせカラオケ、ドライブ、散歩、図書館と喜んで過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける入居者がほとんどで、日々の散歩以外にも四季の行事やドライブ、外食、地域の催し等に出掛ける。	全員参加でお花見に行ったり、近くの公園では紫陽花やバラの花を鑑賞したり、真備のお雛様見学にも行っている。自分で選べる図書館の年1回の配本をもらいに行ったり、日課の散歩と一緒に歩く等、職員と二人で出かける個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、欲しいもの必要なものはいっしょに買物に行く。お祭り等での好きなものの買物も出来る。立替えています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由につかえるように支援しているがほとんどの人はしない。息子さんからお守り携帯をもらっている人もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは狭いですが日当たりが良く、四季折々の景色を感じ居心地良く過ごす事が出来る。工作の得意なスタッフと壁飾りを作る	高台にあるホームのリビングは日中はレースのカーテンをしなくて済む程、開放的で見晴らしが良い。ベランダで寛ぐことも出来る。自分だけの時間を好む人は自室で過ごし、人の中で過ごしたい人はリビングで思い思いに好きな事をしている。このホームは利用者の自主性を重んじている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームの中ではお好みの場所で話し相手と仲良く過ごせるようにしている。 ホールで一人で過ごしたい人もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットは備え付けですがテレビ・ラジカセ・椅子・ぬいぐるみ等お気に入りのものを持ち込みその人らしく過ごせるようにしている。片付けの苦手な人に強要しない	仏壇のある部屋、ベッドの枕元周辺に身の回りの物をいっぱい置いている人、冷蔵庫を置いている人等、今までの生活スタイルを継続できるように支援しながら、その人にとって一番寛げる環境を維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は1・2階ですが元気な人は階段を昇り降りしたり自立した生活を送ってもらっている。		